

平成 21 年 5 月 29 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18330172
 研究課題名（和文）10代の性感染症急増下の日本における性教育の実態と課題に関する研究
 研究課題名（英文）A study on the provision of sex education in Japan with the background of increasing STDs among teenagers

研究代表者
 橋本 紀子（HASHIMOTO NORIKO）
 女子栄養大学・栄養学部・教授
 研究者番号：20138530

研究成果の概要：現実に即した有効な性教育とそれを実現させるためのシステムについて明らかにするために、以下の4点を明らかにした。(1)質問紙調査(量的調査法)で、中学校の取り組み、生徒の知識・意識調査、保護者の性意識と学校への期待、(2)性教育担当教員へのインタビュー調査による中学校の性教育の実態、(3)事前・事後調査による性教育の有効性、(4)各国(フィンランド ドイツ イギリス オーストラリア)の性教育の位置づけや取り組み等。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	7,400,000	2,220,000	9,120,000
2007年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2008年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
年度			
年度			
総計	15,500,000	4,650,000	20,150,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：学校教育、ジェンダーと教育、性教育、セクシュアリティ

1. 研究開始当初の背景

WAS(性の健康世界学会)が採択した「性の権利宣言」(1999年)では、人格の不可欠な要素であるセクシュアリティの完全な発達を人々は保障される権利を持っており、セクシュアル・ライツは普遍的人権であるとされた。モントリオール宣言「ミレニアムにおける性の健康」(2005年)では、“ジェンダ

ーの平等を促進させる”ことや、“セクシュアリティに関する包括的な情報や教育を広く提供する”ことがうたわれている。今日、国際的には、WHOも提唱する「性的節制」とともに有効な避妊法や性感染症予防についても教える包括的性教育は、世界的に認められたスタンダードの性教育となっている。しかし、日本では、周知のように2002年

頃より、これら標準的な性教育と 90 年代後半に提唱されたジェンダー・フリー教育に対して、「過激性教育」や「中性人間をつくる」などのレッテルを貼ってのバッシングが起きている。2002 年の中学生向け性教育パンフレット『思春期のためのラブ&ボディ BOOK』(財団法人「母子衛生研究会」作成)に対する攻撃や 2003 年の都立七生養護学校の性教育に対する攻撃、2007~8 年に福井県、松山市等で起きた『ジェンダー図書』排除事件(2007, 08)などに象徴されるバッシングが各地で起き、その攻防は裁判闘争に持ち越されている。このような国際的動向とは乖離した学校での性教育に対する厳しい抑圧と規制の強まりが、日本における HIV/AIDS の持続的な増加と 10 代の性感染症や望まない妊娠の増加の背景にある。

2. 研究の目的

本研究プロジェクトは、学校で行われている性教育の実態調査を抜きに、このようなバッシングへの反論も、また、より有効な性教育の推進も有り得ないと考えたメンバーによって、2006 年度~2008 年度の 3 年プロジェクトとして設定されたものである。おりしも、保守派の「過激な性教育」が行われているという攻撃に対応するため、文科省は、2005 年に始めて、小・中学校における性教育の全国実態調査を行ったが、それは、主に副読本や教材を含む性教育の管理や組織面に焦点をあてたものであった。しかし、バッシングに抗し、子どもたちが自らの性的安全・性的健康を守ることのできる性教育を構築するためには、現在の青少年の性知識・性行動と学校教育における性教育の実態とを教員や保護者の意識も含めて調査し、それを基に、現実に即した有効な性教育とそれを実現させるためのシステムについて明らかにする必要がある。

以上のような課題意識の下に、本研究プロジェクトの研究目的の第一は、中学校における性教育の実態を全国規模で把握すること、第二は、性教育の有効性についての調査をすること、第三は、海外の学校における性教育と地域社会の取り組み等をも参考に、有効な性教育を進めるための課題と方策について提言することとした。また、今回の中学校における全国規模の性教育実態調査は NGO としては初めてのことである。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するために以下の作業課題が設定された。

(1) 作業課題

課題 1. 学校における性教育の実態を把握するための質問紙調査(量的調査法)を行う。

学校の取り組み、生徒の知識・意識調査、保護者の性意識と学校への期待

課題 2. 性教育担当教員へのインタビュー(質的調査法)による実態把握

全国 10 校の担当教員等へのインタビュー
課題 3.

性教育の事前・事後調査によるその有効性に関する検討

課題 4. 各国の性教育の位置づけ、取り組み等との比較(含む生徒知識調査との比較)

フィンランド ドイツ イギリス
オーストラリア

(2) 研究方法

・海外調査を含む性教育関連資料の収集と分析

・量的、質的調査法の併用(質問紙調査、インタビュー調査、事前事後評価法)

4. 研究成果

本研究の成果から得られた、日本の学校における性教育の現段階からみた私たちの提言は、以下の 10 点である。

(1)科学と人権尊重の視点からの性教育の内容構成の吟味と教育課程上の位置づけに関する検討を多様な次元（現場教員、研究者、医療関係者、教育行政等）で進める。

特に、思春期の心身の発達や人間の生殖などを扱う教科、人権尊重、人間同士の対等平等性を扱う教科は、少なくとも、学習指導要領に基づく検定教科書レベルの内容をもっと、時間をかけて正確に教える必要がある。その上で、性教育の内容構成、すなわち、性教育とは何か、どんな内容を包含するのか、さらに、教科間の分担等、当面学校で取り組むための方策の明確化が課題になる。

(2)管理職も含め、性教育に関する教員研修を保障し、全校で年間計画にもとづいた性教育に取り組めるようにする。特に、管理職の意識を変え、理解を得ることが重要である。性教育を推進していくためには、中心になる教員の存在だけではなく、支える同僚の教師、学校全体の協力が不可欠である。そのための組織や体制を整備することが管理職に求められている。

(3)子どもの性的健康の保障と全校の性教育推進の要としての養護教諭の学校内における位置づけ（ステータス）を見直し、教員間や外部講師とのコ-ディネーター役としても十分に活躍してもらおう。

(4)性教育の事前事後調査から、授業後には、性意識における“背伸び”のような側面は減少し、自然な気持ちで他者への親密な感情の有無や行動の是非についてまじめに考えるようになっており、まだ、データの分析途中ではあるが、性教育の有効性を推測させるものである。この点を、宣伝し、性教育の普及をはかる。

(5)子どもの意見を反映した性教育の内容構成や学びやすい環境（全員学習とテーマ別学習など）の工夫、教育方法の開発をする。

(6)知識調査で正答率が低く、知りたいこともなく、相談相手もいない率の高かった男子の性教育には、NGOの電話相談などの相談先の紹介やより多くの男性教員の参加と協力を得ることも重要である。

(7)射精や自慰など男子に身近な内容の不足が明らかになったが、男子への性教育は父親など男性の参画によって改善できる可能性がある。

(8)子どもの性的健康を守るクリニックやアドバイス・センターのようなNGO組織を地域に作り、そこで、成人向け性教育も行う。保護者調査で明らかになったように、親たち自身が性教育を十分受けていない状況が推測されるので、学校と地域が連携して、親向けの性教育を進める必要がある。

(9)教員養成系大学の教育課程に性教育を位置づける。

(10)医療関係者も含む多様な次元にいる人々と連携し、科学的で子どもたちが理解しやすいように、工夫された教材やテキストを開発する。そのためにも、簡単なことではないが、性交を性的接触と言い換えたり、ペニス、ワグナという用語は使ってはいけないなどの制限を取り払っていく必要がある。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

橋本紀子「北欧・フィンランドにおける幼児の性教育」『月刊クーヨン』7月号、2007年、pp.5-8、査読無

池谷豊夫「ドイツにおける男子援助活動と再帰的男女共学」『教育』12月号、2007年、pp.99-106、査読無

IKEYA Hisao. Maenner und Jungen in Heutigen Japan. In: Switchboard: Switchboard; Zeitschrift fuer Maenner und Jungenarbeit. Nr.181, S 2007 pp.10-13、査読無

橋本紀子「フィンランドの性教育 - 学校と社会の両面から」『児童心理』8月号臨時増刊、2008年、pp.65-71、査読無

池谷壽夫「ドイツにおける男女平等・ジェンダー・メインストリーミング政策の展開と男子援助活動(その1)」『日本福祉大学社会福祉論集』第119号、2008年 pp.41-73 査読無

池谷壽夫「ドイツにおける男女平等・ジェンダー・メインストリーミング政策の展開と男子援助活動(その2)」『日本福祉大学社会福祉論集』第120号、2009年 pp.31-60、査読無

池谷壽夫「ないない尽くしの男子 - 今こそ、男子の性と向き合おう(シリーズ・男子の性は“いま”)」『季刊 Sexuality』41号、2009年、pp.82-85、査読無

〔学会発表〕(計5件)

田代美江子、良香織、茂木輝順、橋本紀子、広瀬裕子、鈴木幸子、篠原久枝、池谷壽夫、渡部真奈美、小宮明彦「日本の中学校における性教育の実態」第3回アジア性教育学会議、2007年8月19日、於・立教大学

MOTEGI Terunori, TASHIRO Mieko, USHITORA Kaori, HASHIMOTO Noriko, HIROSE Hiroko, SHINOHARA Hisae, SUZUKI Sachiko, IKEYA Hisao, KOMIYA Akihiko, WATANABE Manami「Provision of Sex Education at Secondary Schools in Japan」『The 39th Conference of the Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (第39回アジア・太平洋地区公衆衛生学校連合体国際会議)』、11/24/2007、in Kagawa Nutrition University(女子栄養大学)

SHINOHARA Hisae、USHITORA Kaori、HASHIMOTO Noriko、HIROSE Hiroko、SUZUKI Sachiko、TASHIRO Mieko、IKEYA Hisao、KOMIYA Akihiko、MOTEGI Terunori、WATANABE Manami、「A survey on the student's academic knowledge about human sexuality at secondary schools in Japan」、『The 39th Conference of the Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (第39回アジア・太平洋地区公衆衛生学校連合体国際会議)』、11/24/2007、in Kagawa Nutrition

University(女子栄養大学)

SUZUKI Sachiko、WATANABE Manami、HASHIMOTO Noriko、HIROSE Hiroko、TASHIRO Mieko、SHINOHARA Hisae、IKEYA Hisao、USHITORA Kaori、MOTEGI Terunori、KOMIYA Akihiko、「A survey on the opinions of parents for the children's sexuality education at secondary schools in Japan」、『The 39th Conference of the Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (第39回アジア・太平洋地区公衆衛生学校連合体国際会議)』、11/24/2007、in Kagawa Nutrition University(女子栄養大学)

田代美江子「日本の子ども・若者を取り巻く性的環境と性教育」2008 韓国と日本の性教育セミナー 韓・日十代の性文化と性教育の戦略、2008年8月23日、於・韓国労総会館大講堂

〔図書〕(計3件)

橋本紀子『フィンランドのジェンダー・セクシュアリティと教育』明石書店、2006年、総171ページ

橋本紀子ほか『10代の性感染症急増下の日本における性教育の実態と課題に関する研究(2006年度～2008年度日本学術振興会科学研究費補助金[基盤研究(B)・課題番号18330172])研究成果報告書』、2009年、総269ページ

池谷壽夫『ドイツにおける男子援助活動の研究 その歴史・理論と課題』大月書店、2009年、総357ページ

6. 研究組織

(1) 研究代表者

橋本 紀子 (HASHIMOTO NORIKO)
女子栄養大学・栄養学部・教授
研究者番号：20138530

(2) 2006年度・2007年度研究分担者 2008年度連携研究者

広瀬 裕子 (HIROSE HIROKO)
専修大学・法学部・教授
研究者番号：40208880

鈴木 幸子 (SUZUKI SACHIKO)
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授

研究者番号：30162944

篠原 久枝 (SHINOHARA HISAE)
宮崎大学・教育文化学部・准教授
研究者番号：40178885

田代 美江子 (TASHIRO MIEKO)
埼玉大学・教育学部・准教授
研究者番号：40297049

(3) 2006 年度・2007 年度研究協力者 2008
年度連携研究者

池谷 壽夫 (IKEYA HISAO)
日本福祉大学・子ども発達学部・教授
研究者番号：90136367

良 香織 (USHITORA KAORI)
女子栄養大学・栄養学部・特別研究員
研究者番号：10459224

(4) 研究協力者

(2006 年度～2008 年度)

小宮 明彦 (KOMIYA AKIHIKO)
女子栄養大学・栄養科学研究所・客員研究員

渡部 真奈美 (WATANABE MANAMI)
女子栄養大学大学院・栄養学研究科・博士後
期課程

茂木 輝順 (MOTEGI TERUNORI)
女子栄養大学大学院・栄養学研究科・博士後
期課程

(2008 年度)

森岡 真梨 (MORIOKA MARI)
女子栄養大学大学院・栄養学研究科・博士後
期課程